

第6学年 外国語科学習指導案

は組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 J T E 阿 久 根 崇

A L T Christopher Sneller

1 単 元 “What Can You Do?” ～何ができる？世紀の発明品～

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第5学年「Let's Open Our Restaurant! ～お客さんを招待しよう～」の活動を通して、2年生を相手に伝え方を考えながらコミュニケーションを図ったり、できた達成感を基に、コミュニケーションへの意欲をより高めてきている。また、第3学年「Let's Go To Tom's School」や第4学年「Hello World」の活動を通して、日本と関わりの深い国の食文化、有名なスポーツ、生息する動物、学校生活等について体験的に理解を深めてきている。さらに、第5学年「Hello World ～鹿児島の特産品を紹介しよう～」の学習を通して、自己紹介をしたり、身近にある物の特徴を説明したりする初歩的な英語を身に付け、英語を用いて相手により確かに伝えたいと願うようになってきている。

そこで、本単元では、自分ができることを紹介する活動を通して、自分のことを確かに伝えられる喜びを実感させるとともに、相手のことを理解する楽しさを味わわせることで、**必要な英語を見出して身に付けたり積極的にコミュニケーションを図ったりする態度**を養っていききたい。

なお、ここでの学習は、アフリカから来る方々と初歩的な英語を使ってコミュニケーションを図る「Welcome to Kagoshima! ～外国の人と交流しよう!～」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、「こんな道具があったらいいな」「こんな道具があれば、もっとできるようになりそうだ」と、空想のものやことへの想像を膨らませることは楽しいことであり、自分が考えたものやことを他者に伝えたり、友達の考えたものやことについて聞いたりする意欲を喚起するものである。また、空想のものやことを話題にするため、相手との情報のギャップが生まれ、相手によりよく伝わるように工夫したり、相手の伝えようとすることを察しながら聞いたりする必要性に気付かせることができるものでもある。

そのため、自分が考えた発明品やその発明品を使ってできることを話題にしてコミュニケーションを図る活動を設定することは、子どもたちのコミュニケーションへの意欲をより高めることに適している。また、伝え合う際に使用する英語を身に付けたり、相手とより確かに伝え合うために工夫をしたりする必要感を高めることにも適している。さらに、動作を表す英語や can を用いてできることを紹介したり相手に尋ねたりする英語を身に付けさせることにも適している。

このように自分や友達のできることを話題にして、コミュニケーションの工夫について考えることのよさに気付かせたり、工夫して伝え合うことのできた達成感を味わわせたりするために、単元の導入で学習の目的を明確にし、学習内容への知的好奇心を喚起していききたい。そして、学習に必要な英語を把握させた上で、ゲーム活動等を通して楽しませながら必要な英語を身に付けていききたい。さらに、実際のコミュニケーション活動を通して、「使う英語」や「伝え合い方」を観点とした学び合いを導入し、自分や友達の高まりを実感させていききたい。

具体的にはまず、世界の発明家やその発明品についての写真や説明等の ALT による紹介を視聴する活動を設定する。そして、学習内容に興味・関心をもたせながら、発明品を紹介する際に必要な This is ～. I can ～. に気付かせる。また、できるようになりたいことのアンケートの結果をランキング形式で提示し、「世紀の発明品」と題して、できるようになりたいことを実現できるようなオリジナルの発明品を自由に発想する活動を設定する。この活動を通して、知的好奇心をより一層喚起するとともに、主体的に活動できるように単元の学習の見通しをもたせていくようにする。

次に、リズムチャンツやゲーム活動を通して、自分ができることを紹介するために必要な英語を楽しみながら親しませていく。その際、「自分の考えたオリジナルの発明品を使ってできること」を伝えるために必要な英語を把握させることで、英語を身に付ける活動への必要感を喚起するようにしていく。

さらに、自分が考えた発明品を使ってできることを紹介し合う活動を設定する。具体的には、子どもたちの日常生活に身近なテレビショッピングを場面として設定する。紹介し合う活動に向けては、扱う英語や伝え方等を観点とした学び合いを導入し、協働しながら取り組めるようにしていく。

このような学習を通して、自分の思いや考えを伝えるために必要な英語への見通しをもち、目的達成に向けて協働しながら、自分が考えた発明品を使ってできることを紹介するために工夫し、互いの思いを理解したり自分の考えを伝えたりするよさを味わうことができるものと考えられる。

(3) 子どもの実態（対象者：6年は組38名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示）

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について	
○ 外国の人などと英語を使って会話をするのは好きか。	
＜はい(26)＞	
・言葉や文化が学べる (12)	
・人と交流するのが楽しい(7)	
・学んだ英語を使って会話ができるのがうれしい(6)	
＜いいえ(12)＞	
・伝わらないことがある (5) ・苦手(4) ・不安(3)	
② 身に付いた外国語について	
ア 動詞を聞いて理解できるか。	
・ I play baseball. (34) ・ I play the piano. (34)	
・ I swim. (34) ・ I cook. (34)	
イ できるようになりたことと、それを人に伝えるために必要な英語が身に付いているか。	
できるようにになりたいこと	必要な動詞(話せた人数)
早く走る(11)	run (24)
勉強ができる(9)	study (28)
球技が上手にできる(4)	play (28)
早く泳ぐことができる(14)	swim (14)
【未習の動詞を使うもの】	
・英語が話せる(5) ・魔法が使える(5)	
③ 学習・生活経験に関する内容について	
○ 話したり聞いたりする時に、どんなことに気を付けているか。	
話すとき	聞くとき
ジェスチャーを使う(18)	目を見る(15)
ゆっくりと丁寧に話す(11)	質問をはっきりする(11)
つなぎ言葉を使う(7)	分かった時には合図する(7)
正しく発音する(6)	静かに聞く(3)
	自分と比べて聞く(3)

本学級の子どもたちの多くが、英語を使った会話を行うことに好意的である。しかし「いいえ」と答えた子どももあり、既習の英語が身に付いていないことがその原因の一つであると考えられる。(①)

本学級の全ての子どもたちが、既習の英語を聞き取って理解することができた。既習の動作を表す英語を理解できていることに加え、baseball, piano 等の名詞や、「スイミング」「クッキング」等の日常で慣れ親しんでいる外来語を手掛かりにして、聞いて理解することができたと考えられる。(②-ア)

学習に必要な英語については、run, study, play は多くの子どもたちが身に付けているものの、swim はあまり身に付いていないことが分かった。play swimming のように、動作を表す英語を混同して捉えていることが原因であると考えられる。なお、fast, well 等の形容詞については、未習である。(②-イ)

「話すこと」や「聞くこと」については、非言語的手段を挙げている子どもが多いことが分かった。これまでの活動を通して、非言語的手段の効果を理解し、活用することができているものと考えられる。また言語的手段についても意識している子どもがいることが分かった。「つなぎ言葉を使う」「質問をはっきりする」等、円滑にコミュニケーションを図るためには、英語を使って継続していくことが必要であることに気付いているものと考えられる。(③)

(4) 指導上の留意点

ア 「世紀の発明品を知ろう」では、This is ～, I can ～や動作を表す英語、形容詞等の本単元で扱う英語に慣れ親しむ機会を作るために、これらの英語を意図的に取り入れた世紀の発明品の紹介をする。その際、本単元で中心的に扱う英語については、ゆっくり話したり繰り返したりしながら ALT が紹介するようにする。また、主体的に学習できるよう単元の学習に見通しをもたせるために、「JTE や ALT, 友達」に「自分の想像した発明品を使ってできることを英語で紹介する」といった相手意識・目的意識をもたせていく。

イ 「できることの伝え方を考えよう」では、初歩的な英語を身に付ける活動への必要感を喚起す

るために、できるようになりたいことのアンケート結果を基にして、動作を表す英語や形容詞について必要な英語を具体的に見い出させていく。また、自信をもって発話することができるようにするために、ゲーム活動に加え、必要な英語を書き留める活動を設定する。

ウ「発明品を伝え合おう」では、学びの達成感を味わわせるために、学習の過程に応じてペア・グループでの学び合いを設定する。また、学び合いを活性化させたり、自己の高まりに気付かせたりするために、ICT やワークシート等を効果的に活用して、よりよいコミュニケーションに向けて考えたことを可視化できるようにする。

3 目 標

- (1) 自分ができることについて ALT や JTE、友達に積極的に伝えたり、相手ができることを尋ねたりしようとする。
- (2) 動作を表す英語や形容詞について、外来語と英語の発音の違いを体験的に理解することができる。
- (3) “can” や動作を表す英語を身に付け、できることについて話したり聞いたりすることができる。
- (4) 表情、声量、相手への応答の観点で、伝え方を工夫しながらコミュニケーションを継続できる。

4 指導計画（全 4 時間）

思考の高まり	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
発明品を考えるのは面白そう。友達に紹介するために、どんなことが必要かな。	意欲をもつ	Let's Learn About World's Invention. - ALT の発明品紹介を視聴する。 - オリジナルの発明品を考える。 - 学習のめあてを話し合う。	○ 本単元で扱う英語に気付かせるために、ALT による発明品紹介では、特にねらいとする英語を発話する際に、「繰り返し」「ゆっくりと」「声のトーンを変えながら」発話するようにする。
考えた発明品を紹介するために必要な英語が分かってきたよ。これなら、できそうだな。	つかむ	オリジナルの発明品を使ってできることを紹介し合おう。 - 必要な英語を話し合う。 - リズムチャンツをする。 Let's Play Games. - リズムチャンツをする。 - Line Game をする。 - Interview Game をする。 - Test time をする。 - JTE と ALT によるテレビショッピングを視聴する。	○ 単元で扱う英語に対して、使う必要感をもたせるために、できるようになりたいことのアンケート結果を提示し、「既習の英語で使えそうなものはあるか」「使うと会話が広がりそうなものは何か」と問う。
英語は使えるようになったけど、もっと工夫ができそう。スムーズに会話するにはどうすればいいかな。	挑戦する・広げる	Let's Make Our Commercial. - JTE と ALT によるテレビショッピングを視聴する。 - リズムチャンツをする。 - 紹介の仕方を考える。 - 紹介し合い、相互評価をする。 - 発明品のよりよい伝え方について全体で話し合う。	○ 自信をもって発話できるようにするために、「使う英語」を観点としたペアでの学び合いを導入する。また、伝え方の工夫に気付かせるために、「表情」「声量」「相手への応答」を観点としたグループでの学び合いを導入する。
友達と協力したから、いい発表ができた。また英語を使って会話したいな。	振り返る・生かす	発明品の伝え方を考えよう Presentation. - リズムチャンツをする。 - オリジナルの発明品を使ってできることを紹介し合う。 - 単元を通した自分の高まりを振り返る。	○ 学びの達成感を味わわせるために、「表情」「声量」「相手への応答」の観点で他者評価や自己評価を行い、互いの良さを認め合わせるようにする。

5 本 時 (3 / 4)

(1) 目 標

オリジナルの発明品を使ってできることについて、JTE や ALT、友達とよりよく紹介し合うために、必要な英語を使って、相手に応じて工夫しながらコミュニケーションを図ることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、JTE と ALT によるテレビショッピングを示し、「相手に伝わりやすくするために、どんな工夫ができるか」と問うことで観点を子どもから引き出すようにする。また、子どもの思考に沿ってペア・グループと学習形態を変化させるとともに、ワークシートを活用して会話の流れを可視化させる。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	使用英語等	時 間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 Watching Network Shopping	A: Hello. I'm Christopher Sneller.	10	○ 紹介の際に必要な英語や伝え方の工夫を捉えさせ、活動への意欲を高めるために、JTEとALTによるテレビショッピングを視聴させる。その際、「相手に伝わりやすくするために、どんな工夫ができるか。」と問い、子どもから「必要な英語」「伝え方の工夫」等の観点を引き出すようにする。
	2 Meeting Today's Target Let's make our commercial. ・できることを紹介するには、どんな工夫をすればよいのだろうか。	J: I'm Takashi Akune. A: Hi, Mr. Akune. This is a special bat. J: Special bat? With it, what can you do?		
つかむ	3 Practice 4 Rhythm Chants 	A: I can hit homerun. J: Oh. It's very nice. 【チャンツで扱う英語】 with it, What can you do? / I can play soccer well. / I can speak English well. / I can swim fast. / I can run fast.	10	○ 紹介する際の会話の内容を捉えさせるために、会話の流れに沿った口頭練習を行う。What can you do? については本単元が新出のため、子どもの実態を捉えて、「発話する速度」「発話する回数」に特に留意する。
	5 Making Network Shopping 【よりよい伝え方について考える】 友達と一緒に活動したから、会話をできるようになったよ。もっとよく伝えるためには、どんな工夫ができるかな。 			
挑戦する・広げる	 6 Presentation 工夫して紹介ができていますよ。特に、相手が言ったことに返しているのいいね。		20	○ 会話の流れを可視化することで、音声を補完させるために、基本的な表現である I can ~. What can you do? については、音声とともに黒板に文字を示す。
	7 Reflection 使う英語や伝え方を工夫することができたよ。特に、ペアの友達と協力できたのがよかった。			
振り返る	8 Ending		5	○ テレビショッピングを作る活動にあたっては、子どもの思考を踏まえて段階的に学びを深めるために、まず、扱う英語を観点としたペアでの学び合いを導入する。その後、非言語的手段を含めた伝え方の観点で、グループでの学び合いを導入する。 ○ 学びの達成感を味わわせるために、ワークシートに自己評価をさせるとともに、「扱う英語」「伝え方」の観点で、一緒に活動をしたペアで振り返りをさせる。振り返りの内容を全体に広げ、本時の学習に対する価値付けをする。